

埼玉県内全域におけるイヌ・ネコに関する寄生虫保有状況（2024年）

埼玉県動物指導センター

1 はじめに

エキノコックス *Echinococcus multilocularis* をはじめとする動物由来感染症対策の観点から、県内（政令市、中核市は除く）におけるイヌおよびネコの寄生虫侵淫状況を調査したので、2024年の結果について報告する。

2 検査材料および方法

2024年1月から12月までの期間に当センターに収容されたイヌ21頭、ネコ18頭の直腸便又は排泄便を採取し、寄生虫検査を実施した。寄生虫検査は直接薄層塗抹法、ホルマリン・エーテル法（MGL法）、シヨ糖遠心浮遊法および新鮮便の直接塗抹法を併用した。

3 結果

(1) イヌについて

イヌ全体（21検体）のうち、寄生虫の陽性数は2頭、陽性率は9.5%であった。

虫卵は、犬鞭虫卵が2検体（9.5%）、犬鉤中卵が1検体（4.8%）、マンソン裂頭条虫卵が1検体（4.8%）検出された（表1）。犬において複数の寄生虫類に重複感染した検体は2検体あり、その内訳は犬鞭虫、犬鉤虫の2種重複感染、犬鞭虫、マンソン裂頭条虫の2種重複感染であった。

表1 イヌにおける糞便検査結果

		オス (n=16)	メス (n=5)	合計 (n=21)
条虫類	マンソン裂頭条虫	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (4.8%)
線虫類	鞭虫	1 (6.3%)	1 (20.0%)	2 (9.5%)
	鉤虫	1 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)
	陽性頭数	1 (6.3%)	1 (20.0%)	3 (9.5%)

※重複感染があるため虫卵検出数と陽性頭数の合計数は一致しない

(2) ネコについて

ネコ全体（18検体）のうち、寄生虫の陽性数は7検体、陽性率は41.2%であった。

虫卵は、マンソン裂頭条虫卵が4検体（23.5%）、猫回虫卵が2検体（11.8%）、猫鉤虫卵が3検体（17.6%）、壺型吸虫卵が4検体（23.5%）、検出された（表2）。また、ネコにおいて複数の寄生虫類に重複感染した検体は4検体あり、その内訳はマンソン裂頭条虫、壺型吸虫の2種重複感染が2検体、マンソン裂頭条虫、猫鉤虫、毛細線虫の3種重複感染が2検体であった。

表2 ネコにおける糞便検査結果

		オス (n=12)	メス (n=6)	合計 (n=18)
吸虫類	壺型吸虫	3 (25.0%)	1 (16.7%)	4 (23.5%)
条虫類	マンソン裂頭条虫	3 (25.0%)	1 (16.7%)	4 (23.5%)
線虫類	猫回虫	2 (16.7%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)
	猫鉤虫	2 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (17.6%)
	毛細線虫	1 (8.3%)	1 (16.7%)	2 (11.8%)
陽性頭数		6 (50.0%)	1 (16.7%)	7 (41.2%)

※重複感染があるため虫卵検出数と陽性頭数の合計数は一致しない

4 まとめ

調査は、エキノкокクスの本県への侵入に関する疫学調査の一環として実施している。エキノкокクスは検出されていないが、様々な寄生虫類の感染が明らかとなり、ヒトに感染する動物由来感染症の原因となるものも確認された。当センターでは寄生虫侵淫調査を継続し、ホームページ掲載等で情報発信を行い、県民への動物由来感染症予防の普及、啓発に努めていきたい。